

精神保健福祉センター所報

平成 25 年 度

新潟県精神保健福祉センター

巻 頭 あ い さ つ

平成25年度の新潟県精神保健福祉センター所報をお届けします。この1年間の活動に御協力いただいた関係各位に深く感謝するとともに、本号を御高覧のうえ忌憚のない御意見・御指導を賜りますようお願い申し上げます。

新潟県精神保健福祉センターの平成25年度事業を振り返ってみると、主な課題は自殺対策、精神科長期入院患者の地域移行・地域定着支援、高次脳機能障害相談支援の三者でした。自殺対策に関しては市町村、県の各地域機関との協働によるゲートキーパー養成、自死遺族支援者研修会を実施しました。長期入院患者の地域移行・地域定着支援に関しては普及啓発、各職域団体との協働での専門研修、ピアサポート活動、平成24年度に実施した長期入院患者の現状確認に基づく評価等を行いました。高次脳機能障害相談支援に関しては、同相談支援センター事業として事例を重ねるとともにフォーラム等のイベントによる普及啓発、専門職員向け研修等を引き続き実施しました。

新たな課題としては、平成25年度に設置されたひきこもり地域支援センターに関し、各地域振興局と連携し相談等を担当するとともに、従来からの思春期大規模研修会を兼ねて家族・支援者を対象とする講演会を開催しました。また、昨年4月の改正精神保健福祉法施行に伴い、精神医療審査会事務局として審査手続き等の変更を実施したところです。新潟県精神保健福祉協会と新潟こころのケアセンター、精神障害者家族会等関係団体との連携、精神保健福祉相談の充実、ホームページ等を通じた積極的な情報発信はいずれも引き続き専門機関として今後につなげていくべき大きな課題といえるでしょう。こうした活動の基礎となる精神保健福祉専門職員の知識・技術習得の機会としての研修事業は、年度内で日程が集中することのないよう計画を立てて実施しました。今後とも県民の皆様のニーズにお応えすべく研鑽を積んでまいります。

最後になりましたが、日ごろより当センターの各種事業に御支援・御協力をたまわる関係各位に厚く感謝申し上げますとともに、今後とも倍旧の御支援をお願いして、巻頭のごあいさつといたします。

平成27年3月

新潟県精神保健福祉センター

所長 阿部 俊幸

目 次

I センターの概要

1 職種別職員構成	1
2 予 算	1
3 施 設 の 概 要	2

II 事 業 実 績

1 技術指導及び技術援助	4
2 教育研修	6
3 普及啓発	10
4 調査研究	11
5 精神保健福祉相談	12
6 組織育成・支援	14
7 精神医療審査会事務	15
8 自立支援医療及び精神障害者保健福祉手帳に関する判定事務	17
9 精神科救急医療システム情報管理・情報提供	18
10 自殺対策	20
11 思春期精神保健相談事業	26
12 ひきこもり地域支援センター事業	28
13 災害後の精神保健福祉対策	30
14 障害者総合支援法関連事業	31
15 協議会等	42

I センターの概要

1 職種別職員構成

形態 \ 職種	医師	精神保健福祉 相談員 (心理含 む)	高次脳機能障 害相談支援コ ーディネータ ー	一般事務	計
常勤	1(4)	6		2	9(4)
非常勤	7		1	1	9
計	8(4)	6	1	3	18(4)

※ ()は県立精神医療センターとの兼務である。

2 予 算

(1) 歳 入 (円)

科 目	調定額	収入額
(款) 使用料及び手数料	1,725,007	1,725,007
(項) 使用料	1,725,007	1,725,007
(目) 行政財産使用料	1,725,007	1,725,007
(節) 土地使用料	49,867	49,867
(節) 建物使用料	1,675,140	1,675,140
(款) 諸 収 入	1,789,249	1,789,249
(項) 雑 入	1,789,249	1,789,249
(目) 雑 入	1,789,249	1,789,249
(節) 雑 入	1,789,249	1,789,249

(2) 歳 出 (円)

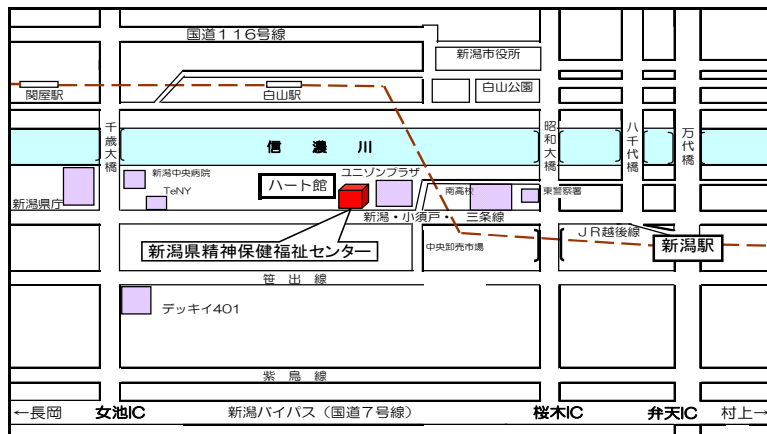
科 目	予算額	支出済額
(款) 福 祉 保 健 費	7,220,429	7,220,429
(項) 障害福祉費	7,220,429	7,220,429
(目) 精神保健福祉センター費	7,220,429	7,220,429
(節) 報 酬	203,200	203,200
(節) 報償費	53,500	53,500
(節) 旅 費	261,788	261,788
(節) 需用費	4,068,536	4,068,536
(節) 役務費	347,815	347,815
(節) 委託費	1,968,171	1,968,171
(節) 使用量及び賃借料	211,419	211,419
(節) 負担金・補助及び交付金	106,000	106,000

(*職員の給与、精神障害者保健福祉手帳等の事務及び精神医療審査会事務経費を除く。)

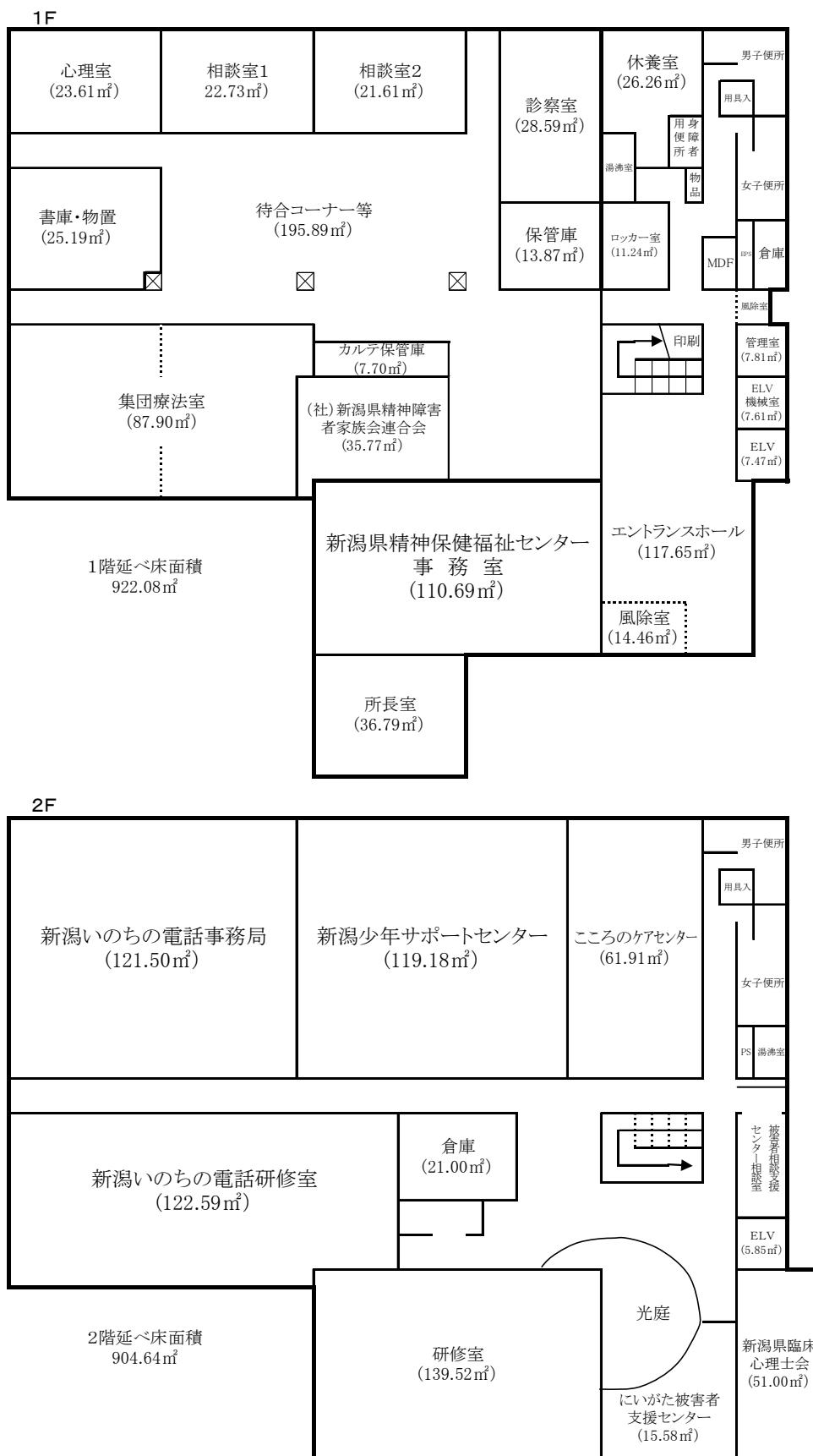
3 施設 の 概 要

- (1) 名 称 新潟県精神保健福祉センター
- (2) 所 在 地 〒950-0994 新潟市中央区上所2丁目2-3
 新潟ユニゾンプラザハート館
 代表電話 025 (280) 0111
 相談電話 025 (280) 0113
 F A X 025 (280) 0112
- (3) 沿 革
- 昭和43年4月1日 新潟市川岸町1丁目57番地1に厚生相談センター（中央児童相談所、婦人相談所を加えた合同庁舎）の3階と2階の一部に「新潟県精神衛生センター」として設置。庶務課と相談指導課の2課制。専任職員12名
- 昭和46年4月1日 専門職員が1名削減され、11名
- 昭和58年4月1日 規制改正により課制廃止となり業務分担制となる。庶務課分掌事務は衛生部医務課庶務係の所管となる。専任職員11名が7名に削減
- 昭和63年3月29日 精神衛生法の改正により、「精神保健センター」に改称
- 平成7年4月1日 平成7年3月に中央児童相談所等の移転に伴い、庁舎名を精神保健センターへ名称変更。単独庁舎となる。所管は環境保健部公衆衛生課
- 平成7年7月10日 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律により、「新潟県精神保健福祉センター」に改称
- 平成10年 庁舎の大規模改修（耐震補強）工事が行われる。
- 平成13年4月1日 専任職員（事務）1名が増員され8名体制となり、庶務的分掌事務が福祉保健部健康対策課から移管
 精神医療審査会の事務、精神障害者保健福祉手帳と通院医療費公費負担に関する判定の事務も移管
- 平成14年4月1日 専任職員（精神保健福祉相談員）1名が増員され9名体制となる。
- 平成16年3月8日 新潟市上所2丁目2-3新潟ユニゾンプラザハート館へ移転
 相談専用電話の開設
- 平成22年4月1日 高次脳機能障害相談支援センター開設。相談専用電話が設置され、翌年1月には専任コーディネーターが配置される。
- 平成25年4月17日 障害福祉課内に開設された「新潟県ひきこもり地域支援センター」を支援するため当所に専用相談電話を開設。研修・啓発・技術支援も当所が担当

(4) 案 内 図



(5) 施設配置図



II 事業実績

1 技術指導及び技術援助

地域振興局健康福祉(環境)部等への技術援助

地域振興局健康福祉(環境)部をはじめとして、関係機関からの要請に応じ職員を派遣して援助・指導にあたった。

要 請 機 関	内 容	役 割	参加者数
村上地域振興局 健康福祉部	○地域自殺対策推進協議会 ○メンタルヘルスサポーター養成研修企画会議 ○メンタルヘルスサポーター養成研修	情報提供 助 言 技術支援	22人 2人 29人
新発田地域振興局 健康福祉環境部	○下越圏域精神障害者地域移行支援部会 ○下越圏域高次脳機能障害支援従事者研修会 ○地域自殺対策推進協議会 ○思春期青年期精神保健福祉研修会	情報提供 情報提供 情報提供 技術支援	26人 23人 28人 21人
新潟地域振興局 健康福祉部	○こころの緊急支援 11回 ○精神科病院と地域機関の連絡会に関する打ち合わせ ○地域自殺対策推進協議会 ○新潟圏域精神障害者地域移行支援部会 ○新潟圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	技術支援 助 言 情報提供 情報提供 助 言	199人 2人 34人 23人 81人
三条地域振興局 健康福祉環境部	○県央圏域精神障害者地域移行支援部会 2回 ○地域自殺対策推進協議会 3回 ○県央圏域高次脳機能障害支援従事者研修会 ○自殺危機初期介入スキルワークショップ ○精神科病院と地域機関との連絡会打ち合わせ	情報提供 情報提供 情報提供 講 師 技術支援	61人 138人 64人 21人 2人
長岡地域振興局 健康福祉環境部	○中越圏域高次脳機能障害支援従事者研修会 ○高次脳機能障害者家族のつどい 3回 ○中越圏域自立支援連絡調整会議地域移行支援部会 ○ひきこもりケース検討会 ○ひきこもり支援職員研修会	情報提供 技術支援 情報提供 助 言 技術支援	27人 16人 37人 5人 27人
魚沼地域振興局 健康福祉部	○地域自殺対策推進協議会 ○魚沼圏域高次脳機能障害支援従事者研修会 ○自殺対策事業実務担当者会議 ○高次脳機能障害者家族のつどい 2回 ○精神科病院と地域機関の連絡会に関する打ち合わせ	情報提供 情報提供 情報提供 技術支援 助 言	19人 46人 11人 9人 4人
十日町地域振興局 健康福祉部	○自殺危機初期介入スキルワークショップ	講 師	22人
柏崎地域振興局 健康福祉部	○地域自殺対策推進協議会 2回	情報提供	49人
上越地域振興局 健康福祉環境部	○こころの健康サポートセンター実務担当者会議 ○自死遺族の集い立ち上げ準備 ○自殺危機初期介入スキルワークショップ ○地域自殺対策推進協議会 ○上越圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	情報提供 技術支援 講 師 情報提供 情報提供	14人 10人 14人 18人 23人

糸魚川地域振興局 健康福祉部	○糸魚川地域相談窓口担当者研修会	講師	18人
	○自殺危機初期介入スキルワークショップ	講師	20人
佐渡地域振興局 健康福祉環境部	○佐渡圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	情報提供	51人
	○地域自殺対策推進協議会及び佐渡地域・職域連携協議会	情報提供	27人
	○佐渡地域ピアサポートに関する研修会	技術支援	52人
	○自殺者の実態把握と分析にかかる研修会	講師	15人
	○地域自殺対策推進協議会	情報提供	23人
小計	58回		1,336人

要請機関	内 容	役 割	参加者数
見 附 市	○自殺危機初期介入スキルワークショップ	技術支援	25人
三条市社会福祉協議会	○こころのゲートキーパー養成講座	講師	66人
新潟県理容生活衛生 同業者組合	○ゲートキーパー研修打ち合わせ	講師	2人
	○ゲートキーパー養成研修 7回	講師	276人
新潟障害者職業センター	○新潟地域精神障害者雇用支援連絡協議会 第1回	技術支援	9人
	○新潟地域精神障害者雇用支援連絡協議会 第2回	情報提供	9人
新潟保護観察所	○新潟県覚醒剤事犯者地域支援連絡協議会	情報提供	17人
新潟大学歯学部	○新潟大学歯学部特別講義	講師	35人
新潟青陵大学	○新潟青陵大学大学院特別講義	講師	12人
コロニーにいがた白岩の里	○アドバイザー事業担当者連絡会議 第1回	技術支援	21人
	○アドバイザー事業担当者連絡会議 第2回	助言	18人
県立精神医療センター	○院内職員研修	講師	72人
県警察本部	○警察相談担当者専科授業	講師	40人
	○こころの緊急支援 3回	技術支援	12人
県高齢福祉保健課	○介護予防市町村支援委員会	情報提供	7人
県障害福祉課	○新潟県自殺対策市町村担当者会議	情報提供	60人
	○新潟県自立支援協議会	技術支援	35人
	○新潟県自立支援協議会担当者会議 2回	技術支援	26人
	○新潟県自立支援協議会精神障害者地域移行支援部会 2回	技術支援	16人
	○いのちとこころの支援センター業務連絡会 3回	技術支援	20人
	○いのちとこころの支援センター相談員等研修会	技術支援	16人
	○県理容組合ゲートキーパー活動事例集作成検討会	助言	2人
	○新潟県自殺対策推進県民会議	助言	66人
	○求職者に対するこころと身体健康相談報告会	技術支援	8人
	○新潟県精神保健福祉審議会	その他	16人
	○精神科救急情報センター設置・運営検討委員会 2回	その他	42人
	○ひきこもり対策連絡協議会準備会	その他	22人
	○精神科救急医療システム連絡調整委員会	その他	26人
○新潟県措置入院制度連絡調整委員会	その他	25人	
小計	42回		1,001人
計	100回		2,337人

2 教育研修

精神保健福祉業務従事者及び関係機関の職員に対して研修を行った。

(1) 精神保健福祉業務担当者研修会

地域振興局健康福祉(環境)部・保健所の精神保健福祉相談員、保健師等の職員を対象に、専門分野の技術向上のための研修会を開催した。

月日 (会場)	内 容	参加者数
7月25日 (精神保健福祉センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義①「ひきこもりの理解」 講師：田宮病院 精神科 医長 山家 卓也 ・講義②「受理面接の進め方」 講師：臨床心理士 榎谷 晶子 ・「グループ討議及び質疑」 テーマ：「ひきこもり支援において困っていること」 「相談の受け手として、どのような支援があるとよいか」 助言者：田宮病院 精神科 医長 山家 卓也 臨床心理士 榎谷 晶子 	31人

※第1回ひきこもり支援従事者研修会と兼ね、新潟県精神保健福祉相談員会と共催で実施した。

(2) 精神保健福祉法令研修

地域振興局健康福祉(環境)部・保健所の精神保健福祉相談員等を対象に、特に慎重な対応が求められる精神保健福祉業務に関して、その根拠となる法令等の知識を習得するための研修会を開催した。

月日 (会場)	内 容	参加者数
4月24日 (精神保健福祉センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と意見交換 「精神科病院の入院制度～措置入院業務を中心として～」 講師：新潟県精神保健福祉センター 次長 野口 晃 	12人

※新潟県精神保健福祉相談員会と共催で実施した。

(3) ケース処遇研修

高次脳機能障害者等の相談支援に従事する者を対象に、新潟神経心理懇話会の協力を得て、高次脳機能障害者の支援技術等を習得するための事例検討会を開催した。

月日 (会場)	内 容	参加者数
平成26年 3月3日 (精神保健福祉センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供 「新潟リハビリテーションセンターの支援内容について」 社会福祉法人豊潤舎 新潟リハビリテーションセンター 支援課長 小林 圭介 ・事例検討 【事例】「精神不穏が強く退院後の生活が困難であり、病院から地域への連携や柔軟なサービス提供が必要となったケース」 	29人

	事例提供者：医療法人新潟勤労者医療協会 下越病院 言語聴覚士 本田 智子 作業療法士 山崎 明人 看護師 久保埜 麻美 前下越病院 介護士 梅田 洋子 新潟市秋葉区健康福祉課地域保健福祉担当 主 査 木伏 忠浩 進 行：高次脳機能障害相談支援センター 相談支援コーディネーター 荻野 見菜子 助 言 者：新潟医療福祉大学 医療技術学部言語聴覚学科 同大学 大学院保健学専攻 教授 今村 徹	
--	--	--

※高次脳機能障害ケース検討会を兼ねて実施した。

(4) 精神保健福祉業務新任者研修会

地域振興局健康福祉(環境)部、市町村、精神科医療機関、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、地域活動支援センター等において、精神保健福祉業務の従事経験が3年未満の職員を対象に、精神保健医療福祉に関する基礎的事項の理解を促す研修会を実施した。

	月日 (会場)	内 容	参加者数
第1日	7月3日 (新潟ユニゾン プラザ 大会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ・「精神保健福祉施策の歴史と展開」 新潟県精神保健福祉センター 次 長 野口 晃 ・「支援者のメンタルヘルスとセルフケア」 臨床心理士 榎谷 晶子 ・「精神疾患の基礎知識」 南浜病院 院 長 後藤 雅博 	実 110 人 (延 211人)
第2日	7月4日 (新潟ユニゾン プラザ 大会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ・「精神保健福祉相談の進め方と留意点」 上越圏域障害者地域生活支援センター・上越市社会福祉協議会 センター長 丸山 ひろみ ・「精神疾患を持つ方が利用できる制度とサービス」 県央越圏域障害者地域生活支援センターやすらぎ・梨の里 専門相談員・施設長 杉山 敦彦 ・「御本人と御家族の経験から学ぶ」 話し手 御本人、御家族 コーディネーター 専門相談員・施設長 杉山 敦彦 	

(5) 精神医療・保健・福祉関係者合同実践セミナー

当県の精神医療・保健・福祉に関する多職種の関係者が一堂に会した質の高い研修の機会を提供するため、新潟県精神医療機関協議会、新潟県精神障害者家族会連合会、新潟県精神保健福祉士協会及び新潟県精神障害者社会復帰施設協議会とともに毎年テーマを決めて開催。

月日 (会場)	内 容	参加者数
平成 26 年 2 月 2 8 日 (新潟ユニゾン)	基調講演「精神障害者の就労支援のあり方について」 講 師：帝京大学医学部 精神神経科学講座 教授 池淵 恵美	185 人

<p>プラザ 大研修室)</p>	<p>・シンポジウム「精神障害者の就労支援の実際」 シンポジスト：相談支援センター みなみうおぬま 副主任相談支援専門員 高橋 琢也 障がい者就業・生活支援センター あおぞら 主任就労支援ワーカー 高橋みゆき 指定障害福祉サービス事業所 魚野の家 サービス管理責任者 中澤 富之 当事者 小野塚 寛子 (株)津山商店 管理部人事課長 高橋 貴之 管理部総務経理課 主任 若井 香 座長：医療法人恵生会 南浜病院 院長 後藤 雅博 助言者：帝京大学医学部 精神神経科学講座 教授 池淵 恵美</p>	
----------------------	---	--

(6) 学生実習

学生の職業意識向上のための機会提供と行政に対する理解を深めることを目的とした本県インターンシップ実施要綱により4名の学生を受け入れた。

- 1 実習受入機関 16日間
- 2 受入学校・人数
新潟青陵大学看護福祉心理学部心理学科 2名
国際子ども・福祉カレッジ精神保健福祉学科 2名
- 3 学生実習日程 8月8日(水)から8月30日(木)

	月 日	プ ロ グ ラ ム	
		午 前	午 後
第1日目	8月8日(水)	オリエンテーション 精神保健福祉センター業務について	新潟県地域移行支援部会傍聴
第2日目	8月9日(木)	災害時のこころのケア対策	ハート館入居団体の活動について聴く
第3日目	8月10日(金)	うつ・自殺予防講演会(長岡市立図書館)	
第4日目	8月13日(月)	精神障害者とノーマライゼーション	思春期・ひきこもり対策
第5日目	8月14日(火)	自殺対策 (対策の現状)	服部先生と野口次長のトーク
第6日目	8月15日(水)	シエスタ	高次脳機能障害対策について
第7日目	8月16日(木)	高次脳機能障害の理解を深める	箱庭・コラージュ体験
第8日目	8月18日(土)	精神障害者の地域移行に関する研修会(ときメッセ)	
第9日目	8月20日(月)	自殺対策 (統計)	精神保健福祉法について
第10日目	8月21日(火)	精神保健福祉対策の現状	実習振り返りⅠ
第11日目	8月22日(水)	シエスタ	精神障害者地域移行・地域定着支援事業
第12日目	8月23日(木)	PTSD研修(燕三条地場産業振興センター)	
第13日目	8月24日(金)	ビデオを観てディスカッション	実習まとめ
第14日目	8月27日(月)	実習まとめ	実習振り返りⅡ
第15日目	8月29日(水)	思春期・青年期精神保健研修会(長岡会場)	
第16日目	8月30日(木)	思春期・青年期精神保健研修会(新発田会場)	

*講義時間は90～120分程度

3 普及啓発

県民の精神的健康保持・増進をはかり、関係機関に対して精神保健福祉に関する情報等を提供するために次のとおり広報普及活動を行った。

(1) 関係機関・団体等の開催する講演会・研修会等への援助

関係機関・団体等の要請に応じ職員を派遣し、精神保健に関する知識の普及啓発につとめた。

要 請 機 関	期 日	内 容	参加者数
新潟北ロータリークラブ	5月13日	メンタルヘルス研修会	23人
県障害福祉課	9月20日 平成26年3月19日	自殺対策メディアミックスキャン ペーン事業(民放FM局での啓発)	—
フォルトネット (ひきこもり家族の会)	11月7日	家族の会の定例会での講話	10人
新潟地方気象台	12月17日	メンタルヘルス研修会	26人
新潟いのちの電話	平成26年1月23日	相談員養成研修会	15人
胎内市	平成26年2月3日	ひきこもり研修会	10人
五泉市社会福祉協議会	平成26年2月14日	心配事相談所相談員合同研修会	10人
計			94人

(2) DVD等の貸し出し

精神保健福祉について正しい知識の普及を図るため、DVDや書籍等の貸し出しを行った。

貸出先	保健所	市町村	病院	地域活動支援 センター等	その他	計
件数	8	1	25	0	7	41

(3) 「精神保健福祉情報マップ」の発行

県内の精神保健福祉関連の社会資源情報の普及を図るため、「精神保健福祉情報マップー平成25年度版一」(発行部数550部)を発行し、関係機関に配布した。

(4) 高次脳機能障害支援ガイドブックの発行

高次脳機能障害者への連続したケアと適切な支援を促進するため、医療、保健、福祉関係機関で高次脳機能障害者やその家族への支援を担当する関係者による「高次脳機能障害者支援ガイドブック作成委員会」を立ち上げ、「高次脳機能障害者支援ガイドブック」を作成し、関係機関に配布した。

4 調査研究

精神保健福祉活動を推進するため事業のまとめ・調査等を行い、県内外に情報発信した。

学会・研究会発表

テーマ	担当者	期日・学会・研究会名（会場）
「精神科入院患者の自殺率について」	所長 阿部 俊幸	平成 25 年 10 月 23 日 全国精神保健福祉センター研究協議会 (津市：三重県)
「救急病院を受診した自殺企図者の性差について」	所長 阿部 俊幸	平成 26 年 1 月 23 日
「入院継続者 379 人の現状確認と支援の取組について」	主査 山岸 里映	平成 25 年度福祉保健関係職員研修会 (新潟市：県庁 講堂他)

5 精神保健福祉相談

(1) 精神保健福祉相談

来所者及び地域振興局健康福祉(環境)部等の複雑困難な事例について、精神保健相談及び精神医学的診断・指導助言を行い、必要な支援・援助活動を行った。

ア 年次別利用者数

	平成 23 年度				平成 24 年度				平成 25 年度			
	実人数		延人数		実人数		延人数		実人数		延人数	
来所	94	男	66	358	107	男	75	382	80	男	61	256
		女	28			女	32			女	19	
電話	704	男	342	1,400	656	男	320	1,554	836	男	422	1,442
		女	351			女	317			女	392	
		不明	11			不明	19			不明	22	
計	798	男	408	1,758	763	男	395	1,936	916	男	483	1,698
		女	379			女	349			女	411	
		不明	11			不明	19			不明	22	

イ 男女別・年齢別実件数

		0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	不明	計
来所	男	1	6	21	10	7	11	4	1	0	61
	女	0	4	6	4	2	2	1	0	0	19
	計	1	10	27	14	9	13	5	1	0	80
電話	男	1	39	85	51	62	44	27	15	98	422
	女	1	36	52	55	52	28	20	19	129	392
	不明	0	5	1	1	0	0	0	0	15	22
	計	2	80	138	107	114	72	47	34	242	836
計	男	2	45	106	61	69	55	31	16	98	483
	女	1	40	58	59	54	30	21	19	129	411
	不明	0	5	1	1	0	0	0	0	15	22
	計	3	90	165	121	123	85	52	35	242	916

ウ 保健所管内別実件数

	新潟市	下越				中越						上越		県外	不明	計
		村上	新発田	新津	佐渡	三条	長岡	魚沼	南魚沼	十日町	柏崎	上越	糸魚川			
来所	28	3	11	4	1	17	9	0	2	0	2	1	0	2	0	80
		19				30						1				
電話	96	37	91	30	16	130	129	12	24	21	27	49	7	10	157	836
		174				343						56				
計	124	40	102	34	17	147	138	12	26	21	29	50	7	12	157	916
		193				373						57				

エ 来所経路

	保健所	市町村	医療機関	福祉事務所	児童相談所	女性福祉相談所	施設	教育機関	警察機関	司法関係	その他の公的機関
来所	5	3	5	0	0	0	3	6	0	0	2
電話	9	29	29	1	2	3	7	9	7	3	28
計	14	32	34	1	2	3	10	15	7	3	30
	マスコミ	本・パンフレット	インターネット	いのちの電話	個人的紹介	精神障害者手帳	継続	直接来所 タウンページ	その他	不明	計
来所	8	4	15	0	2	0	18	0 / 0	7	2	80
電話	78	75	151	1	19	0	18	0 / 16	38	313	836
計	86	79	166	1	21	0	36	0 / 16	45	315	916

オ 主訴別案件数

主 訴	来所	電話	計	主 訴	来所	電話	計
発達の問題	0	2	2	家庭内の問題	6	53	59
性格・行動の問題	28	291	319	診断・治療の問題	7	207	214
結婚・遺伝の問題	2	3	5	リハビリテーション	13	96	109
教育の問題	4	30	34	その他	12	92	104
職業の問題	8	62	70	計	80	836	916

カ 診断名別案件数

診断名(疑い含む)	来所	電話	計	診断名(疑い含む)	来所	電話	計
統合失調症・妄想性障害	1	70	71	摂食障害	0	7	7
そううつ病	0	11	11	パーソナリティ障害	0	4	4
うつ病	2	82	84	精神遅滞	1	4	5
その他の気分障害	2	7	9	自閉症・アスペルガー障害	1	19	20
てんかん	0	1	1	その他の発達障害	4	8	12
老年期精神障害	0	2	2	不登校・ひきこもり	0	7	7
高次脳機能障害	28	91	119	その他	5	2	7
アルコール関連障害	0	7	7	不明	26	377	403
薬物乱用	0	5	5	障害なし	8	72	80
その他の中毒性精神障害	0	3	3	計	80	836	916
神経症性障害	2	57	59				

6 組織育成・支援

地域精神保健福祉活動の一環として、精神障害者家族会をはじめ各種団体に対して専門的立場から指導援助を行った。

要請機関・団体	内 容	参 加 者 (人)			備 考
		総 数	家 族 等	関 係 者	
新潟県精神 医療機関協議会	○理事会（2回）	18		18	
	○定期総会（6月20日）	32		32	
	○精神保健・医療・福祉関係者合同実践セミナー （平成26年2月28日）	197		197	
	○会報の発行（2回）				
新潟県精神 保健福祉協会	○理事会（1回）	15		15	
	○平成25年度総会・記念講演（中越支部担当） 「認知症の人は世界をどう体験しているか」 講師 東京都立松沢病院 院長 斉藤 正彦	250		250	
	○新潟こころのケアセンター運営委員会等（5回）	48		48	
特定非営利活動 法人 新潟県精神障害 者家族会連合会	○第44回新潟県精神障害者家族会連合会大会 記念講演「自立的な地域生活の実現に向けて」 講師 新潟大学保健学研究科 教授 中村 勝	227	※227		※関係者 を含む
	○精神保健福祉研修会～共生を目指して～ 講演「家族会活動で元気ハツラツ」 講師 精神障害者を守る日立市民の会 副会長 弓野 孝子	213	※213		※関係者 を含む
脳外傷友の会 スワン	○高次脳機能障害リハビリテーション講習会 （8月17日）	139	※139		※関係者 を含む
	○高次脳機能障害リハビリテーション講習会 実行委員会（8月6日）	8	※8		※関係者 を含む
新潟県理容生活 衛生同業者組合	○ゲートキーパー養成研修事業推進委員会（1回）	11		11	
新潟ダルク はばたきネット	○「はばたきネット会」（新潟ダルク設置に向けた 検討会）（2回）	33	※33		※関係者 を含む
計		1,191	※620	571	※関係者 を含む

7 精神医療審査会事務

精神医療審査会では、精神科病院に入院中の者の人権擁護と適正な医療の確保のために、医療保護入院届や定期病状報告書の審査と入院患者等からの退院・処遇改善の請求に関して、入院継続や適否について審査を行っている。

(1) 開催状況

ア 合議体 開催回数 24回(2回/月) 出席委員数 延114人
イ 総会

会議名	開催日	会場	主な議題	出席委員数
平成25年度新潟県精神医療審査会総会	平成26年3月11日	新潟県精神保健福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> 審査状況の報告 入院届等審査書類の改正点と審査の観点について 改正精神保健福祉法施行に伴う審査体制等の変更について(予備委員の配置や合議体数の増、退院等請求の審査における意見聴取) 合議体審査時の懸案事項 改正精神保健福祉法について(情報提供) 	9人

(2) 委員

ア 合議体 4合議体
イ 委員数 20人(医療委員12人、法律家委員4人、有識者委員4人)

(3) 審査状況

ア-1 退院等の請求審査

区分	請求件数	審査件数	審査結果				意見聴取件数	取り下げ件数	退院等審査要件の消失	平均処理日数
			現在の入院形態による入院又は処遇が適当	他の入院形態への移行が適当	病状等について報告を求めることが適当	入院又は処遇は不適當				
退院請求	27	20	20	0	0	0	20	7	0	26.9
処遇改善請求	11	5	5	0	0	0	6	4	2	32.6
合計	38	25	25	0	0	0	26	11	2	28

ア-2 請求を受理してから審査結果を通知するまでの期間

区分	日数別件数					合計	平均処理日数
	30日以内	31日以上 ～40日以内	41日以上 ～60日以内	61日以上 ～90日以内	91日以上		
退院請求	14	4	1	1	0	20	26.9
処遇改善請求	3	1	0	1	0	5	32.6

イ 定期の報告等の審査

区分	審査 件数	(内、 審査 継続 件数)	審査結果				実地審 査件数	意見聴 取件数
			現在の入 院形態に よる入院 又は処遇 が適当	他の入院 形態への 移行が適 当	病状等に ついて報 告を求め ることが 適当	入院又は 処遇は不 適当		
医療保護入院届	2,371	45	2,371	0	0	0	0	0
定期病 状報告	措置入院	7	7	0	0	0	0	0
	医療保護入院	1,663	1,663	0	0	0	0	0
合 計	4,041	110	4,041	0	0	0	0	0

(4) 審査実施年次推移

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
審査会開催回数	24	24	24	24	24	24	24
定期病状報告書審査件数	1,589	1,687	1,623	1,735	1,641	1,660	1,670
入院届審査件数	2,336	2,550	2,398	2,599	2,579	2,301	2,371
退院等請求審査件数	49	40	45	39	57	34	25

*新潟市の政令市移行に伴い、H19年度から新潟市を除く県内の病院に係る審査を実施。

(5) 退院等請求相談電話の状況

件 数	内 訳		
	入院者本人	家族等	その他
218	212	5	1

(6) 精神医療審査会関係会議等

会議名	主催	開催日	会場	主な課題	出席者数
平成 25 年度全国 精神医療審査会 連絡協議会 仙台シンポジウ ム	全国精神医 療審査会 連絡協議会	10月26日	福岡市立 婦人会館 (福岡市)	・これからの入院制度と患者 の権利擁護 ・今次の改正と精神医療審査 会マニュアル改訂	1人
平成 25 年度全国 精神医療審査会長 会議	厚生労働省社 会・援護 局障 害保健福祉部 精神・障害保 健課	平成 26 年 2月28日	アルカディア 市ヶ谷 (東京都)	・精神科病院に対する指導監 督の現状について ・改正精神保健福祉法の施行 について	2人
全国精神医療審査 会連絡協議会 平成 25 年度総会 ・シンポジウム	全国精神医 療審査会 連絡協議会	平成 26 年 2月28日	アルカディア 市ヶ谷 (東京都)	・改正精神保健福祉法の施行 と近年の精神保健福祉施 策について ・法改正と権利擁護	2人

8 自立支援医療及び精神障害者保健福祉手帳に関する判定事務

自立支援医療費（精神通院）支給認定の適否及び精神障害者保健福祉手帳交付の可否や等級判定を行った。

(1) 自立支援医療判定件数

判定件数	13,566
承認件数	13,482
不承認件数	5

(2) 精神障害者保健福祉手帳判定件数

判定件数	2,451
承認件数	2,212
1級	195
2級	1,882
3級	135
不承認件数	49

9 精神科救急医療システム情報管理・情報提供

精神科救急医療システムの稼働状況の取りまとめ、当番体制の調整・管理を行った。また、テレフォンスービスによる夜間当番病院の案内を行った。

精神科救急医療システム稼働状況

(休日昼間)

平成25年度ブロック別比較

状況	ブロック					
	県北	新潟・佐渡	県央	魚沼	上越	総計
稼働状況	43.8%	55.6%	66.1%	40.5%	67.8%	54.8%
稼働日数	53	95	80	49	82	359
当番日数	121	171	121	121	121	655
対応件数	72	179	168	96	181	696
電話のみ	22	78	96	60	125	381
電話→来院	26	87	58	25	52	248
直接来院	24	14	14	11	4	67
処理内容	75	180	175	98	199	727
相談助言	25	83	102	61	137	408
外来診療	37	61	44	32	40	214
入院	13	36	29	5	22	105
任意入院	2	10	4	0	5	21
医療保護	7	26	25	4	14	76
その他	4	0	0	1	3	8

年度別推移

状況	年度						
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
稼働状況	57.6%	57.1%	56.1%	52.4%	51.2%	52.8%	54.8%
稼働日数	377	377	373	346	338	343	359
当番日数	655	660	665	660	660	650	655
対応件数	809	746	759	722	606	599	696
電話のみ	408	330	311	313	274	285	381
電話→来院	320	321	351	332	264	253	248
直接来所	81	95	97	77	68	61	67
処理内容	809	746	765	816	670	647	727
相談助言	415	344	324	373	301	306	408
外来診療	273	277	319	312	274	244	214
入院	121	125	122	131	95	97	105
任意入院	27	34	35	26	29	29	21
医療保護	90	89	80	65	64	64	76
その他	4	2	7	4	4	4	8

(夜 間)

平成 25 年度ブロック別比較

状況	ブロック					
	県北	新潟・佐渡	県央	魚沼	上越	総計
稼働状況	71.3%	54.3%	78.8%	36.4%	55.2%	67.8%
稼働日数	67	63	216	12	32	390
当番日数	94	116	274	33	58	575
対応件数	132	128	547	17	57	881
電話のみ	93	67	427	5	41	633
電話→来院	28	59	108	7	16	218
直接来所	11	2	12	5	0	30
処理内容	127	128	582	18	62	917
相談助言	88	67	449	7	42	653
外来診療	31	36	89	9	12	177
入院	8	25	44	2	8	87
任意入院	3	3	0	0	2	8
医療保護	5	22	42	2	5	76
その他	0	0	2	0	1	3

年度別推移

状況	年度						
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
稼働状況	65.5%	58.1%	64.1%	58.2%	57.0%	50.7%	67.8%
稼働日数	241	212	234	324	328	291	390
当番日数	368	365	365	557	575	574	575
対応件数	447	397	459	707	656	518	881
電話のみ	122	94	138	328	320	210	633
電話→来院	275	272	293	314	278	269	218
直接来所	50	31	28	65	58	39	30
処理内容	447	397	460	742	687	569	917
相談助言	122	97	127	348	342	239	653
外来診療	238	215	251	293	259	240	177
入院	87	85	82	101	86	90	87
任意入院	3	5	8	12	12	15	8
医療保護	83	80	73	67	86	72	76
その他	1		1	7	3	3	3

10 自殺対策

(1) 人材育成

ア ゲートキーパー養成研修会

早期発見・早期対応のために、保健医療福祉従事者や自殺対策の相談業務担当者に対し、「ゲートキーパー」としての適切な相談支援能力の向上を図る研修会を開催した。
また、リーダー養成研修を開催し、地域でゲートキーパーを養成するための講師を育成した。

【月 日】 7月1日

【会 場】 精神保健福祉センター

【内 容】 テキストを用いたワークショップ

講師：ルーテル大学自殺危機初期介入スキル研修会認定講師

新潟大学保健管理センター 講師 村山 賢一

新発田健康福祉環境部 主査 萩原 直美

精神保健福祉センター 参事 保科 志貴子

【参加者】 24人(保健所、市町村自殺対策相談業務担当者)

【月 日】 9月5日

【会 場】 精神保健福祉センター

【内 容】 テキストを用いたワークショップを開催するリーダー養成

講師：ルーテル大学総合人間学部 教授 福島 喜代子

新潟大学保健管理センター 講師 村山 賢一

【参加者】 19人(保健所、市町村自殺対策相談業務担当者)

イ 自殺対策企画立案力向上研修会(官民共同した自殺対策の推進を考える研修会)

保健所、市町村、民間団体など自殺対策に取り組む担当者の企画立案力の向上と情報交換を目的に研修会を開催した。

【月 日】 12月20日

【会 場】 新潟県自治会館

【内 容】 市町村、民間団体の実践報告

講義「社会システムづくりとコーディネート力」

講師：(公財) 広島県保健医療推進機構 地域医療推進部長 橋本 康男

グループワーク

【参加者】 47人

ウ 「休職者に対するこころとからだの健康相談」に従事する看護職への技術援助

県が日本精神科看護技術協会新潟支部に委託したハローワークでの相談事業に従事する看護職への助言指導を行った。

第2回(年度末振り返り)

【月 日】 平成26年3月17日

【会 場】 精神保健福祉センター

【内 容】 ケース対応に関する助言

【参加者】 8人

エ「いのちとこころの支援センター」専門相談員に対する技術援助

県が県内3ヶ所に開設したいいのちとこころの支援センターで相談事業に従事する専門相談員に対する研修会企画及び相談業務等への助言指導を行った。

研修会(2回)

【月 日】9月4日

【会 場】精神保健福祉センター

【内 容】講義「ハイリスク者への相談技術の基本」

講師：新潟県立大学 人間生活学部子ども学科 講師 勝又陽太郎

【参加者】18人

【月 日】11月13日

【会 場】精神保健福祉センター

【内 容】事例検討会

スーパーバイザー：新潟県立大学 人間生活学部子ども学科 講師 勝又陽太郎

【参加者】9人

業務連絡会(3回)

【月 日】9月4日、11月13日、1月29日

【会 場】精神保健福祉センター

【参加者】延べ 37人

オ 市町村・民間団体等主催人材養成研修会への技術支援

市町村や民間団体が開催する住民又は団体構成員に対するゲートキーパー養成研修会に対して、
て、
企画への助言や講師として開催支援を行った。

市町村主催

【月 日】平成25年10月～2月

【実施市町村】十日町市、三条市、糸魚川市、上越市、見附市、加茂市、関川村 延べ20回

【内 容】ルーテル大学自殺危機初期介入スキル研修会のテキストを用いたワークショップや講義形式の研修会等

【参加者】188名

新潟県理容生活衛生同業者組合主催研修企画支援

【回 数】2回

【内 容】研修企画助言及び事例集作成支援について

新潟県理容生活衛生同業者組合主催研修

【月 日】5月～10月 計9回

【会 場】県理容美容福祉会館他7会場

【内 容】ゲートキーパー養成研修

講義①「新潟県の自殺の現状と対策」

講義②「傾聴の基本について」

演 習 ロールプレイとグループワークによる演習

講 師：理容組合ゲートキーパー指導者養成研修終了者

開催地所管の健康福祉（環境）部精神保健福祉相談員及び関係市町村保健師等
精神保健福祉センター 参事 保科志貴子

【参加者】13支部 延べ262名

(2) ポストベンション

ア 自死遺族支援

遺族への支援の必要性についての理解を深め、支援の拡大を図るための事業を実施した。

- 自助グループ「虹の会」への支援
 - ・例会（年6回：偶数月第1木曜日開催）に会場を提供し、担当2名が支援スタッフとして参加。
 - ・支援スタッフの技術向上のために、外部スーパーバイザーによる指導を1回（6月）設定。
- 地域機関主催の検討会への支援。虹の会の世話人2名とともに講師として参加し、遺族支援について講話を行った。
 - ・上越健康福祉環境部、上越市、妙高市 10名

イ ポストベンション

自殺者や未遂者の発生した事業所等団体や関係機関に対して、場のケアやその後の対策への助言等支援を行い、精神的不調者や再発のリスク軽減を図ることを目的に対応した。

- ・職員の健康管理担当者への指導助言 6回
- ・当該職場の管理職への心理教育 1回

(3) 働き盛りのメンタルヘルス対策事業

ア 働き盛りのメンタルヘルス研修会

- 精神保健福祉業務新任者研修会
 - 【月 日】7月3日
 - 【会 場】新潟ユニゾンプラザ 研修室
 - 【内 容】講義「支援者のメンタルヘルス」
講師：臨床心理士 櫛谷晶子
 - 【参加者】104人
- 働き盛りのメンタルヘルス講座（共催：三条健康福祉環境部、新潟障害者職業センター）
 - 【月 日】9月27日
 - 【会 場】燕三条地場産業振興センター リサーチコア 研修室
 - 【内 容】①講義「こころのサインの理解と効果的なコミュニケーション」
講師：田宮病院 臨床心理士 中山恵子
 - ②講義「休職者の職場復帰の実際」
講師：新潟障害者職業センター 障害者職業カウンセラー 金沢 寛
 - ③グループワーク：テーマ「不調者や休職者への対応と課題」
 - 【参加者】26人

イ 働く人のメンタルヘルス講座

- 新潟地方気象台主催
 - 【月 日】12月17日
 - 【会 場】新潟地方気象台
 - 【内 容】講 義「働く人のメンタルヘルス」
講 師：精神保健福祉センター 参事 保科志貴子
 - 【参加者】26名

(4) 市町村・関係機関・民間団体・保健所技術支援

ア 市町村・関係機関・民間団体支援

自殺予防対策を実施する市町村・関係機関に対して、技術支援を行った。

要 請 機 関	内 容	役 割	参加者数
上 越 市	こころの健康サポートセンター実務者連絡会議	情報提供	13人
新潟障害者職業センター	関係機関連絡会議（職場復帰支援について）	情報提供	18人
新潟北ロータリークラブ	新潟県の自殺者の状況と対策	情報提供	23人
小計	3回		54人

イ 保健所支援

自殺予防対策を実施する保健所に対して、資料の提供、会議への出席、研修会講師等を通して技術支援を行った。

要 請 機 関	内 容	役 割	参加者数
村上地域振興局 健康福祉部	○自殺予防メンタルヘルスサポーター養成研修会	情報提供	31人
	○村上地域自殺対策推進協議会	助 言	22人
新発田地域振興局 健康福祉環境部	○新発田地域自殺対策推進協議会	情報提供	28人
新潟地域振興局 健康福祉部	○新潟地域自殺対策推進協議会	情報提供	34人
三条地域振興局 健康福祉環境部	○県央圏域自殺対策推進協議会（2回）	情報提供 資料提供	89人
魚沼地域振興局 健康福祉部	○魚沼地域自殺対策推進協議会	情報提供	19人
	○自殺対策事業実務担当者会議	情報提供	11人
南魚沼地域振興局 健康福祉環境部	○南魚沼地域自殺対策推進協議会	資料提供	1人
柏崎地域振興局 健康福祉部	○柏崎・刈羽地域自殺対策推進協議会（2回）	情報提供	49人
上越地域振興局 健康福祉環境部	○上越地域自殺対策推進協議会	情報提供	18人
	○自殺対策事業実務担当者会議（自死遺族支援）	情報提供	10人
糸魚川地域振興局 健康福祉部	○糸魚川地域相談機関窓口担当者研修会	講 師	18人
佐渡地域振興局 健康福祉部	○佐渡地域自殺対策推進協議会（2回）	情報提供	50人
	○自殺者の実態把握と分析に係る研修会	講 師	15人
小計	17回		延べ395人

(5) 電話相談事業

自殺対策推進月間(9月)及び自殺対策推進強化月間(3月)期間中、電話回線を増設して相談対応を強化した。

- 相談件数：延べ28件

(6) 高齢者対策

高齢福祉保健課事業に協力することにより、高齢者施策中に自殺対策を位置づけた。

- 介護予防市町村支援委員会専門部会（閉じこもり・認知症・うつ部会）への参加（年1回）

(7) 啓発普及

ア 自殺対策推進月間における普及啓発活動

- 庁舎の懸垂幕による月間の広報
- ホームページを利用した月間の広報

イ 地域自殺対策キャンペーン

- 自殺対策リレーフォーラムとして、「女性とうつ病」をテーマにうつ・自殺予防講演会を6月27日新潟会館において開催した。参加者119人。
- 長岡保健所との共催により、長岡祭りで街頭キャンペーンを行った。
8月2日、祭り参加者に、自殺対策のメッセージが入った団扇や紙風船等の普及啓発用品を配布した。

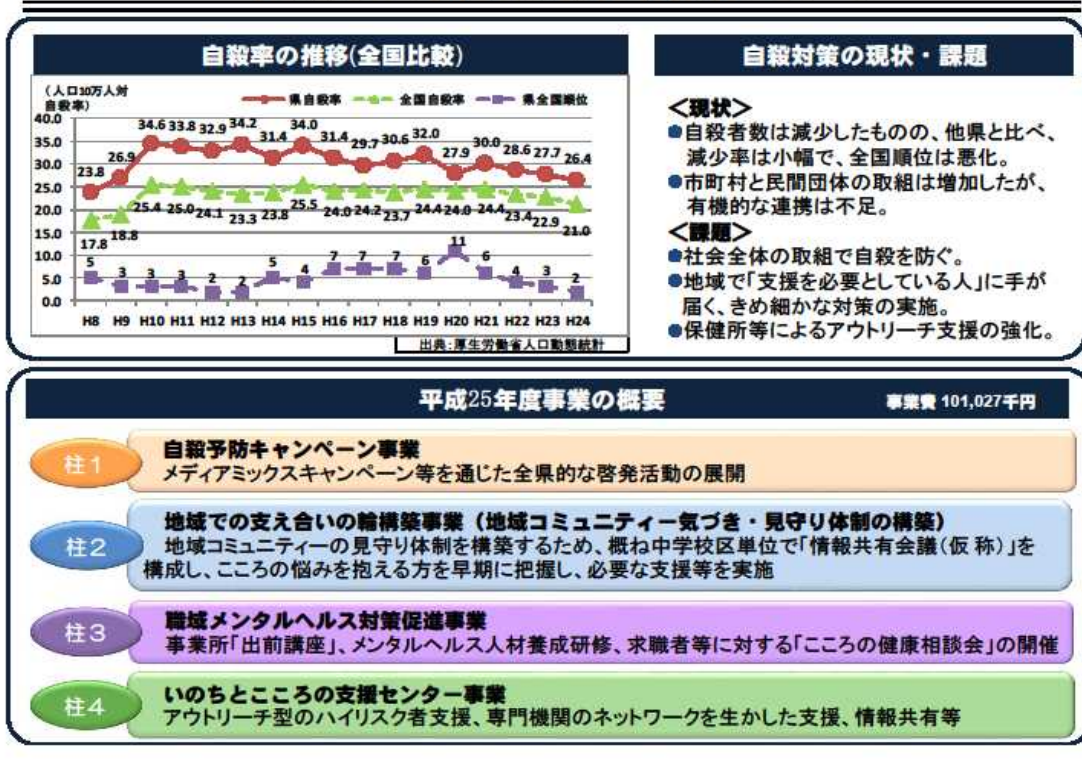
ウ 事業所、業界団体等主催の研修会に講師として参加し普及啓発を行った。（一部再掲）

- 新潟地方気象台主催
12月17日、新潟地方気象台職員に対して「働く人のメンタルヘルス」に関する啓発を行った。
- 新潟北ロータリークラブ主催
5月13日、新潟北ロータリークラブ例会の場で会員に対して「新潟県の自殺の現状と対策」に関する啓発を行った。

エ 関係団体の発行する広報誌の作成に協力し、普及啓発を行った。

- 新潟いのちの電話開局30周年記念誌作成への協力、情報提供

平成25年の自殺対策事業について

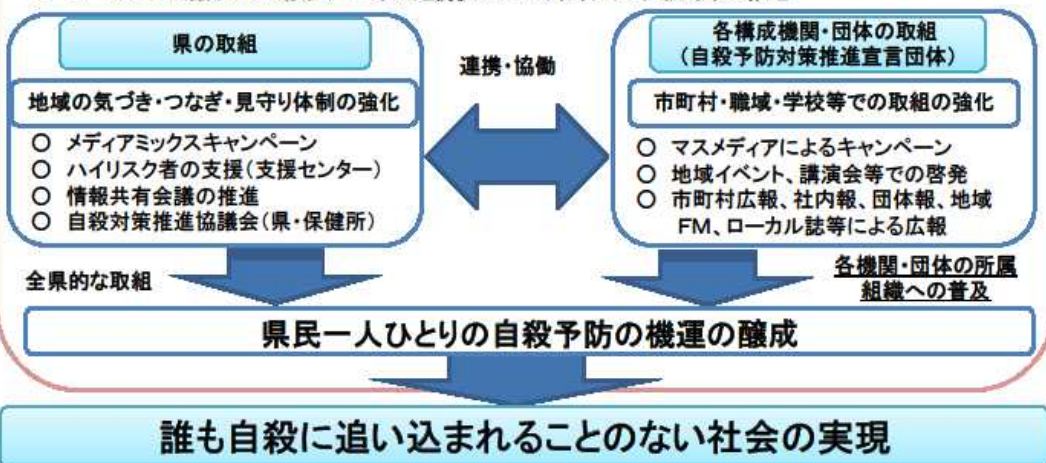


自殺予防対策推進県民運動の展開

- 新潟県では、毎年600人以上の方々が自殺によって尊い命を失っています。
- 県民一人ひとりへ「たった一人のあなたです。たった一つの命です」との自殺予防メッセージを届け、地域で悩みを抱えている人を相談に結びつける「自殺予防対策推進県民運動」を、官民一体となり展開していきます。

新潟県自殺予防対策推進県民会議

〔構成〕市町村、保健・医療・福祉・法律・労働・教育等専門機関、民間団体、報道機関など36団体
 ●ワーキング会議(H25.10設置)・・・庁内連携強化による総合的な自殺対策の推進



11 思 春 期 精 神 保 健 相 談 事 業

(1) 来所相談 (再掲)

適応障害や精神疾患等の思春期の心の問題の解決を図るため、年18回思春期精神保健相談を開設し、専門的診断・指導を行った。

ア 相談件数

	実件数	延件数
男	8	9
女	4	4
計	12	13

イ 性別・年齢別実件数

	～14	15～19	20～	計
男	1	4	3	8
女	0	3	1	4
計	1	7	4	12

ウ 診断名別実件数

診 断 名	件数	診 断 名	件数
不 安 障 害	1	無 し	4
摂 食 障 害	1	不 明	2
気 分 障 害	2		
不登校・ひきこもり	2	計	12

エ 処遇別実件数

処遇方法	件数
医療機関等に紹介	6
相談継続	0
助言指導	6
計	12

(2) ひきこもり当事者グループ及び家族学習会

ア ひきこもり当事者グループ「シエスタ」

開催日	実施回数	参加人数	主な活動内容
毎週水曜日 10:00～11:30	51回	実 4人 延 130人	フリートーク、スポーツ、カードゲーム、調理、花見など。

イ ひきこもり家族学習会 1回 9人が参加

ウ 自主グループ「ひきこもり家族交流会」への支援 年3回

(3) 思春期青年期精神保健研修会

思春期・青年期における専門知識の習得・対応技術の向上、ネットワーク活動の推進を図るため、関係機関の職員に対して研修を行った。

月日 (会場)	内容	参加人数
8月20日 (新発田地域振興局仮説庁舎2階大会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「不登校・ひきこもり支援を考える～家族をどう支えるか～」 講師：新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科 准教授 斎藤まさ子 ・体験発表 発表者：お子さんが不登校経験のある御家族 ・グループによる意見交換 	21人
10月4日 (長岡地域振興局会議室棟2階大会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供「ひきこもり地域支援センターについて」 新潟県精神保健福祉センター 主任 平田 朋美 ・講義「不登校・ひきこもり支援を考える～家族をどう支えるか～」 講師：新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科 准教授 斎藤まさ子 ・実践報告「家族会活動を通じての家族支援の実践報告」 報告者：KHJにいがた「秋桜の会」 支部長 島崎誠司 アドバイザー 安達 孝 ・グループによる意見交換 	27人
12月14日 (ホテルニューオータニ長岡2階白鳥東中の間)	<ul style="list-style-type: none"> ・行政説明「新潟県ひきこもり地域支援センターについて」 新潟県福祉保健部障害福祉課いのちとこころの支援室 主任 村上由布子 ・講演「ひきこもりの理解と対応～家族として今できること～」 講師：筑波大学 医学医療系 教授 斎藤 環 	300人

(4) 調査

平成24年度中の市町村における青少年を中心とした「ひきこもり」の対応状況等について

- ア 目的 市町村における青年期を中心とした「ひきこもり」の相談、支援状況及び問題点を把握する。
- イ 調査期間 平成25年4月12日から5月10日
- ウ 方法 市町村に質問紙を郵送またはメール送信し、ファクシミリにて回答を得た。
- エ 実績 結果を市町村、保健所に報告した。

12 ひきこもり地域支援センター事業

平成25年4月に県ひきこもり地域支援センターが県障害福祉課内に設置された。当所は協力機関として、ひきこもり相談ダイヤルへの対応等専門相談、関係職員等への研修、普及啓発、市町村等への技術支援を行った。

(1) ひきこもり相談ダイヤル

ひきこもり相談ダイヤルを設置し、ひきこもりで悩んでいるご本人やご家族からの電話相談に対し、必要な支援・援助活動を行った。

ア 相談件数

	実件数	延件数
男	125	152
女	41	42
不明	30	30
計	196	224

イ 性別・年齢別実件数

	～19	20～29	30～39	40～49	50～	不明	計
男	16	49	20	17	7	16	125
女	6	10	10	5	2	8	41
不明	0	2	0	0	0	28	30
計	22	61	30	22	9	52	196

ウ ひきこもりの期間別実件数

ひきこもりの期間	件数
6ヶ月未満	16
1年未満	8
3年未満	24
5年未満	21
7年未満	9
10年未満	14
10年以上	34
不明	70
計	196

エ 現在の状況別実件数

現在の状況	件数
自室からほとんど出ない。出かけてもコンビニ程度。	37
普段は家に閉じこもり気味だが、趣味に関することのみ出かける。	58
友人との付き合いや、地域活動に参加しているが、未就労	11
不明・その他	90
計	196

(2) ひきこもり支援従事者研修会（再掲）

ひきこもりに関する基礎知識及び技術について学び、支援技術の向上を図るため、市町村、保健所等関係機関の職員に対して研修を行った。

月日 (会場)	内容	参加人数
7月25日 (精神保健福祉センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義①「ひきこもりの理解～自己愛の発達の視点から～」 講師：田宮病院 精神科医長 山家 卓也 ・講義②「受理面接の一例」 講師：臨床心理士 榎谷 晶子 ・グループによる意見交換 	31人

(3) ひきこもり講演会（思春期青年期精神保健研修会）（再掲）

ひきこもりの方への理解を深め、家族や支援者の望ましい対応について学ぶことにより支援の充実を図ることを目的に講演会を実施した。

月日 (会場)	内容	参加人数
12月14日 (ホテルニューオータニ長岡 2階 白鳥東中の間)	<ul style="list-style-type: none"> ・行政説明「新潟県ひきこもり地域支援センターについて」 新潟県福祉保健部障害福祉課のちとこころの支援室 主任 村上由布子 ・講演「ひきこもりの理解と対応～家族として今できること～」 講師：筑波大学 医学医療系 教授 斎藤 環 <p>※思春期青年期精神保健研修会と兼ねて実施。</p>	300人

(4) 技術支援（啓発普及（再掲））

要 請 機 関	期 日	内 容	参加者数
フォルトネット (ひきこもり家族の会)	平成25年11月7日	家族の会の定例会での講話	10人
胎内市	平成26年2月3日	ひきこもり研修会	10人
五泉市社会福祉協議会	平成26年2月14日	心配事相談所相談員合同研修会	10人
計			30人

13 災害後の精神保健福祉対策

(1) こころの緊急支援事業

県民の生命に関わる事件・事故及び災害等で、その衝撃が学校や地域などに深刻な心理的影響を及ぼすおそれがある事案の発生時に、こころの健康管理対策を実施する現地の機関を側面支援するため、派遣要請に応じることが妥当と判断した場合、職員を派遣する。

○精神保健福祉協会こころのケアセンターとの共催で新潟PTSD対策専門研修会の開催

【月 日】8月26日

【会 場】新潟ユニゾンプラザ 中研修室

【内 容】

- ・講義「トラウマとその反応：自然災害における精神保健のための基礎知識」
講師：新潟大学医歯学総合研究科 精神医学分野 准教授 北村秀明
- ・講義「福島県における東日本大震災・原発事故災害後のこころのケア」
講師：福島県精神保健福祉センター 所長 畑 哲信
- ・講義「災害後の地域のつながりとこころの問題」
講師：新潟大学人文学部 教授 松井克浩

【参加者】延べ90人

(2) 事件・事故に係るポストベンションへの対応

事故発生後の職員のこころのケアの実施について、関係する地域機関、市町村、当該事業所に対して支援を行った。

【内容】地域機関、市町村職員：こころのケア実施計画立案への支援及びこころのケアについてのレクチャー 4回

当該事業所管理・監督者：こころのケアについてのレクチャー及び見守り体制づくりへの助言 4回

当該事業所職員：こころのケアについてのレクチャー及び個別面接 1～2回

【期間】5月29日～9月6日まで延べ9日間

(3) 東日本大震災への対応

福島県から事業委託を受けた新潟県精神保健福祉協会の事務局として、東日本大震災及び原発事故の被災者のこころのケアのための「福島県外被害者の心のケア事業」の運営に協力した。

○福島県外被害者の心のケア事業企画及び実施への支援 4回

○運営委員会への出席 2回

(4) こころのケアセンターへの協力

(財)新潟県中越大震災復興基金及び(財)新潟県中越沖地震復興基金から事業委託を受けた新潟県精神保健福祉協会の事務局として、中越大震災等の被災者のこころのケアのための「こころのケアセンター」の運営に協力した。

○こころのケアセンター運営委員会への出席 1回

○山古志地域「こころとからだの健康調査」検討会 2回

14 障害者総合支援法関連事業

(1) 精神障害者地域移行・地域定着支援事業

ア 研修会の開催

精神障害者の地域移行・地域定着支援に関する知識の普及や関係者の資質向上を図るため、保健所・障害者地域生活支援センター、精神科病院、市町村、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所等に対して研修を行った。

月日 (会場)	内 容	参加者数
精神障害者地域移行 支援研修会 12月14日 (新潟ユニゾン プラザ 大会議室)	＊講演「改正精神保健福祉法施行を見据えた病院と地域の連携 ～地域生活を支える精神医療の実現に向けて～」 講師：医療法人(社団)河崎会水間病院 院長 河崎 建人 ＊講演「障害者総合支援法における地域相談支援 ～医療機関スタッフに求められる知識と視点～」 講師：特定非営利活動法人じりつ 代表理事 岩上 洋一 ＊話題提供「新たな長期入院者を生まないための 多職種・他機関連携とそれぞれの役割 ～フロー図案と院内多職種連携の実践から考える～」 話題提供者：柏崎厚生病院 精神保健福祉士 鈴木 一由 梨の里施設長 県央圏域障害者地域生活支援センター専門相談員 杉山 敦彦 田宮病院 作業療法士 菊入 恵一 助言者：医療法人(社団)河崎会水間病院 院長 河崎 建人 コーディネーター： 特定非営利活動法人じりつ 代表理事 岩上 洋一 ＊グループディスカッション 「多職種・多機関連携を推進するための方策を考えてみよう！」 助言者：特定非営利活動法人じりつ 代表理事 岩上 洋一 主催：新潟県作業療法士会、新潟県精神保健福祉センター 共催：新潟県精神科病院協会、日本精神科看護技術協会新潟県支部新 潟県精神保健福祉士協会、新潟県精神障害者社会復帰施設協議 会、新潟県臨床心理士会、新潟県相談支援専門員協会、新潟市	114人
相談支援従事者等 専門コース別研修 (地域移行・ 地域定着) 11月14日 (精神保健福祉セ ンター)	＊講義1 「改正精神保健福祉法施行を見据えた 地域移行・地域定着支援と新潟県の取り組みの方向性」 講師：上越圏域障害者地域生活支援センター 上越市社会福祉協議会 専門相談員 丸山 ひろみ ＊講義2 「地域相談支援の流れと各時期のポイント ～『障害者地域相談のための実践ガイドライン(第2版)』 を用いて～」 講師：地域生活支援センター サポートセンターきぬた 地域移行コーディネーター 金川 洋輔	101人

	<p>*実践報告「地域移行支援と地域定着支援の実際 ～実践事例から病院・相談支援事業所・市町村の動き の実際とバリエーションを知ろう！～」</p> <p>報告者：県立精神医療センター 主査 清塚 裕子 障がい者支援センターあさひ 相談支援専門員 松崎 明子 新潟市西蒲区巻地域保健福祉センター 主幹 細井 修平</p> <p>進行：中越圏域障害者地域生活支援センター茨内 専門相談員 中村 千里</p> <p>助言：サポートセンターきぬた 地域移行コーディネーター 金川 洋輔</p> <p>*演習 「次年度を見据えた各所属での『準備』とは？ ～明日から取り組む『準備』を具体的にしてみよう！～」</p> <p>助言：サポートセンターきぬた 金川 洋輔 上越圏域障害者地域生活支援センター 丸山 ひろみ</p> <p>主催：新潟県精神保健福祉センター 共催：三条地域振興局健康福祉環境部 県央圏域障害者地域生活支援センターやすらぎ</p>	
<p>第1回 地域移行・地域定着 支援強化研修会 (対象) 専門相談員、新潟市委託 事業所担当者、保健所</p>	<p>別記参照 相談支援従事者等専門コース別研修(地域移行・地域定着)と兼ねて開催</p>	20人
<p>第2回 地域移行・地域定着 支援強化研修会 (対象) 同上</p>	<p>別記参照 ピアサポート活動支援従事者研修会と兼ねて開催</p>	20人

イ ピアサポーターの養成及び活動の推進

県事業要綱で「ピアサポーターの活動の推進」が圏域センターと保健所の役割とされたことを受け、ピアサポート活動を地域で広げる支援者向け研修会を開催するとともに、圏域でのピアサポート活動推進の取り組みに参加し、圏域情報を収集した。

○研修

日時(会場)	内 容	参加者数
<p>中越圏域ピアサポーター支援者研修会 5月31日 (長岡地域振興局 大会議室)</p>	<p>*講義「リカバリーとピアサポート ～地域の中で当事者の力を活かすには～」 講師：聖学院大学 人間福祉学部 人間福祉学科 教授 相川 章子</p> <p>*当事者の話 ・リカバリーストーリー ・ピアサポート活動の実際</p> <p>*グループワーク *全体共有 主催：長岡地域振興局健康福祉環境部、柏崎地域振興局健康福祉部 中越圏域障害者地域生活支援センター茨内 新潟県精神保健福祉センター</p>	60名

<p>リカバリーとピアサポートに関する研修会</p> <p>9月10日 (新潟市総合保健医療センター講堂)</p>	<p>*講義 「リカバリーとピアサポート ～当事者と支援者がともに活動を進めていくために～」 講師：聖学院大学 人間福祉学部 人間福祉学科 教授 相川 章子</p> <p>*実践報告 「当事者による支援活動の実際と支援者の在り方 ～ポプラの会と絆の会の活動から～」 報告者：社会福祉法人 絆の会 太田 廣美 NPO 法人ポプラの会 副会長 大堀 尚美</p> <p>*意見交換 *まとめ 助言者：聖学院大学 人間福祉学部 人間福祉学科 教授 相川 章子</p> <p>主催：新潟県精神保健福祉センター、新潟市 協力：新潟地域振興局健康福祉部 新潟圏域障害者地域生活支援センターあさひの家</p>	<p>93名</p>
<p>ピアサポート活動支援従事者研修会</p> <p>平成26年 2月25日 (精神保健福祉センター)</p>	<p>*活動紹介「県内ではどんなピアサポート活動があるの？」 各圏域のピアサポート活動をリレー形式で紹介・PR</p> <p>*講義「地域に根付くピアサポート活動のために」 各圏域の活動や困っている事、質問から 講師：聖学院大学 人間福祉学部 人間福祉学科 教授 相川 章子</p> <p>*グループでの話し合い 「こんなピアサポート活動をやってみたい！ ～やってみたい活動テーマごとに分かれて 希望やアイデアを話し合ってみよう～」</p> <p>*全体発表・まとめ 助言者：聖学院大学 人間福祉学部 人間福祉学科 教授 相川 章子</p>	<p>37人</p>

○圏域活動への参加・協力

圏域	内容	回数・参加者
下越圏域	精神障害のある方の仲間同士の支え合い講座（第3回）	1回（29人）
中越圏域	・ピアサポーターフォローアップ研修 ・ピアサポーター支援者研修	2回（36人）
上越圏域	・ピアサポートステップアップ講座（第3回） ・ピアサポート講座フォローアップ講座	2回（46人）
佐渡圏域	佐渡地域ピアサポートに関する研修会	1回（52人）

ウ 精神障害者地域移行・地域定着支援事業担当者連絡会議の開催

精神障害者地域移行・地域定着支援事業担当者の情報交換と事業の具体的な内容等の検討を目的に担当者連絡会議を2回開催した。

日時（会場）	内容	参加者数
<p>第1回 5月23日 (精神保健福祉センター)</p>	<p>24年度事業実施状況と25年度事業計画について／精神保健福祉法の改正の動向について／「新たな長期入院者を生まない取り組み」実施案について（グループにわかれて検討）／情報交換</p>	<p>19人</p>

第2回 平成26年2月25日 (精神保健福祉センター)	25年度の事業実施状況/次年度の事業実施体制と事業目標/25年度重点事項に関する評価と次年度に向けた活動について(グループにわかれて検討)	19人
-----------------------------------	---	-----

エ 圏域部会等への出席(再掲)

障害福祉圏域単位で開催されている地域移行支援部会等に出席し、関係機関に対する情報提供及び技術支援を行った。

圏域	内容	実績
下越圏域	下越圏域障害者地域生活支援連絡調整会議 精神障害者地域移行支援部会	1回(26人)
新潟圏域(2市1町)	新潟圏域(2市1町)精神障害者地域移行支援部会	1回(23人)
県央圏域	・県央圏域精神障害者地域移行支援部会(2回) ・大島病院と地域機関の連絡会にかかる打合せ会	3回(64人)
中越圏域	中越圏域自立支援連絡調整会議地域移行支援部会	1回(37人)

オ 新潟県自立支援協議会への出席

自立支援協議会関係会議に相談支援拠点機関として出席した。

会議名	実績
新潟県自立支援協議会	1回(35人)
新潟県自立支援協議会精神障害者地域移行支援部会	2回(31人)
新潟県自立支援協議会担当者会議	2回(27人)

カ 「379人の現状確認と支援の取組」に関する評価・検討会の開催

平成24年度に実施した平成18年度精神科病院入院患者調査で「社会的入院」と判断され、平成23年度時点でもなお入院継続となっていた379人の入院患者との面談と必要な支援を提供するための取り組み結果を評価し、今後の医療と地域の連携した地域移行・地域定着支援の取組に活かすことを目的に標記検討会を開催した。

なお、構成メンバーについては、本取り組みを行う契機の意見提案を行った「地域移行を推進するための医療と地域の連携に関する検討会」の委員に依頼した。

- (1) 検討会構成メンバー出席者 13名
 - (ア) 新潟県精神科病院協会(医師) 1名
 - (イ) 日本精神科看護技術協会新潟県支部(看護師) 1名
 - (ウ) 新潟県精神保健福祉士協会(精神保健福祉士) 1名
 - (エ) 県委託先事業所専門相談員 2名
 - (オ) 圏域部会事務局(保健所) 2名(*)

*異動に伴い、所属が25年度時点で児童相談所となった者1名を含む。
 - (カ) 県及び新潟市精神保健担当課 各1名
 - (キ) 県精神保健福祉センター 4名

- (2) 開催回数 2回

- (3) 検討会からの評価と提言

2回の検討会での話し合いにより、実施全体への評価、面談結果についての意見、今後の地域移行・地域定着支援の取組への提言の3つ内容が提出された。

同内容については、県地域移行支援部会に報告した。

キ その他

内 容		実 績
調査・情報提供	入院患者の各種計画と地域機関との情報共有に関するアンケートの実施及び集計、速報版の送付	精神科病院、圏域センター、新潟市、地域振興局健康福祉(環境)部、県障害福祉課へ情報提供
関係機関との会議	① 地域移行支援研修会(多職種)打合わせ会議 全体会(3回 実14人 延33人) ワーキング(4回 実8人 延28人) ②アドバイザー事業担当者連絡会議 (コロニーにいがた白岩の里主催)	① 7回(61人) ② 2回(39人)

(2) 高次脳機能障害相談支援センター事業

ア 相談支援実績（再掲）

相談支援件数 834 件（延べ件数） 相談支援者数 35 人（実人数）

直接相談（延べ件数）				間接相談（延べ件数）				ケース会議			
電話	来所	メール・書簡	その他（訪問・出張・同行）	電話	来所	メール・書簡	その他（訪問・出張・同行）	主催		協力	
								開催数	参加者数	開催数	参加者数
145	22	27	46	461	3	60	45	15	77	10	86

※直接相談は当事者・家族からの相談、間接相談は関係機関（行政・医療・福祉等）からの相談とする。

イ 普及啓発

高次脳機能障害についての理解を深め、支援の充実を図ることを目的に実施した。

月日（会場）	内 容	参加者数
高次脳機能障害 支援フォーラム 平成 26 年 3 月 8 日 （新潟市総合保健 医療センター）	<p>*講演「あきらめないリハビリ ～高次脳機能障害を抱えた言語聴覚士の経験から～」 講師：神戸大学大学院保健学科客員教授 三鷹高次脳機能障害研究所所長 関 啓子</p> <p>*ご本人・ご家族からのメッセージ ご本人の立場から 母の立場から 妻の立場から</p>	139 人

ウ 関係職員研修の開催

医療福祉関係者の知識、支援技術の向上を図るために研修会を実施した。

月日（会場）	内 容	参加者数
保健所担当職員 研修会 6 月 1 2 日 （精神保健福祉 センター）	<p>*講義「高次脳機能障害の具体的支援～発症から回復支援まで」 講師：南魚沼市立ゆきぐに大和病院 リハビリテーション科 科長 言語聴覚士 井口 光開</p>	14 人
医療関係職員 研修会 1 1 月 2 日 （県庁西回廊 2 階 講堂）	<p>*講義「高次脳機能障害の医学的リハビリテーションの現状と その課題」 講師：神奈川県リハビリテーション病院 高次脳機能障害支援室長 青木 重陽</p>	119 人

月日 (会場)	内 容	参加者数
<p>ケース検討会</p> <p>平成26年3月3日 (精神保健福祉センター)</p>	<p>*情報提供 「新潟リハビリテーションセンターの支援内容について」 社会福祉法人豊潤舎 新潟県障害者リハビリテーションセンター 支援課長 小林 圭介</p> <p>*事例検討 【事例】「精神不穏が強く退院後の生活が困難であり、病院から地域への連携や柔軟なサービス提供が必要となったケース」 事例提供者：医療法人新潟勤労者医療協会 下越病院 言語聴覚士 本田 智子 作業療法士 山崎 明人 看護師 久保埜 麻美 前下越病院 介 護 士 梅田 洋子 新潟市秋葉区健康福祉課地域保健福祉担当 主 査 木伏 忠浩</p> <p>進 行： 高次脳機能障害相談支援センター 相談支援コーディネーター 荻野 見菜子 助 言 者：新潟医療福祉大学 医療技術学部言語聴覚学科 教授 今村 徹</p> <p>※ケース処遇研修を兼ねて実施</p>	29人

エ 圏域別支援従事者研修会への技術支援

二次保健医療圏の各圏域において、高次脳機能障害支援に従事する関係者に対して、高次脳機能障害に関する基本的な知識及び支援手法等の普及を図り、関係者の資質向上を図るとともに、各圏域における支援ネットワークの構築に資するため、保健所主催で圏域別支援従事者研修会を実施した。

月日 (会場)	内 容	参加者数
<p>圏域別支援従事者研修会</p> <p>【佐渡圏域】 8月9日 (佐渡総合病院 2階 講堂)</p>	<p>*情報提供 「高次脳機能障害相談支援センターにおける取組について」 高次脳機能障害相談支援センター 相談支援コーディネーター 荻野 見菜子</p> <p>*講義・事例検討「事例から学ぶ高次脳機能障害の基本的知識」 講師：新潟医療福祉大学 医療技術学部言語聴覚学科 教授 今村 徹</p> <p>事例提供者：佐渡市立両津病院 居宅介護支援専門員 三好 君江</p>	51人
<p>【県央圏域】 10月25日 (燕三条地場産業振興センター)</p>	<p>*情報提供 「新潟県における高次脳機能障害者支援」 高次脳機能障害相談支援センター 相談支援コーディネーター 荻野 見菜子</p>	64人

	<p>【県央圏域】 10月25日 (燕三条地場産業振興センター)</p>	<p>*講義①「高次脳機能障害の基礎知識」 講師：総合リハビリテーションセンターみどり病院 リハビリテーション科 リハビリテーション専門医 野本 規絵</p> <p>*講義②「新潟リハビリテーションセンターの紹介」 講師：新潟県障害者リハビリテーションセンター 支援課長 小林 圭介</p> <p>*事例報告「高次脳機能障害者支援の実際 ～介護保険・障害者福祉サービスを利用した支援～」 事例報告者：相談支援センターハート 相談支援専門員 阿部 勝良 新潟県障害者リハビリテーションセンター 支援課長 小林 圭介 三条市地域包括支援センター嵐北 センター長 鈴木 泰子</p> <p>*情報交換 グループでの討議</p>	64人
圏域別支援	<p>【新潟圏域】 11月18日 (新潟市役所本館 3階 対策室)</p>	<p>*講義「高次脳機能障害のタイプとその対応の仕方」 講師：新潟医療福祉大学 医療技術学部作業療法士学科 教授 能登 真一</p> <p>*講話「当事者に寄り添って・・・」 地域活動支援センタースワン 施設長 石井 祐子</p> <p>*事例検討「脳出血で入院中の40代男性の退院後の地域の支援について」 助言者：新潟医療福祉大学 医療技術学部作業療法士学科 教授 能登 真一 地域活動支援センター スワン 施設長 石井 祐子 高次脳機能障害相談支援センター 相談支援コーディネーター 荻野 見菜子</p>	81人
従事者研修会	<p>【上越圏域】 11月26日 (上越市市民プラザ)</p>	<p>*活動報告「当事者に寄り添って」 地域活動支援センタースワン 施設長 石井 祐子</p> <p>*情報提供 ①病院からリハビリ等に関する情報提供 説明者：上越総合病院 リハビリテーション科 作業療法士 山崎 正人</p> <p>②作業所からの活動報告 説明者：好望こまくさ 生活指導員 藤井 彩香</p> <p>③新潟県からの情報提供 説明者：高次脳機能障害相談支援センター 相談支援コーディネーター 荻野 見菜子</p> <p>*グループワーク 上越圏域で実施可能な高次脳機能障害に対する支援体制について話し合い、支援体制図をグループで作成する</p>	23人

月日 (会場)	内 容	参加者数
【魚沼圏域】 12月4日 (南魚沼市ゆきぐに大和病院 健友館 多目的ホール)	*情報提供「新潟県の高次脳機能障害支援について」 高次脳機能障害相談支援センター 相談支援コーディネーター 荻野 見菜子 *講義「高次脳機能障害患者の具体的支援 ～発症から社会復帰まで、連携の重要性～」 講師：南魚沼市立ゆきぐに大和病院 地域連携室 室長 手島 雅敏 リハビリテーション科 作業療法士 井口 光開 *グループワーク「支援チームで考えよう！高次脳機能障害者支援について」 助言・講評：南魚沼市立ゆきぐに大和病院 地域連携室 室長 手島 雅敏	46名
【中越圏域】 12月6日 (長岡地域振興局 会議室棟 2階 大会議室)	*講義「高次脳機能障害の基礎知識とその対応について」 講師：長岡中央総合病院 言語聴覚士 目黒 文 *事例報告「高次脳機能障害者支援の実際」 事例報告者：障がい者就業・生活支援センターこしじ 主任就業・生活支援ワーカー 近藤 智子 高次脳機能障害相談支援センター 相談支援コーディネーター 荻野 見菜子 *情報交換 (支援状況及び支援の中で困っていること)	27人
【下越圏域】 12月9日 (新発田市カルチャーセンター 2階 視聴覚室・展示室)	*講義「高次脳機能障害を理解する」 講師：新潟医療福祉大学 医療技術学部言語聴覚学科 教授 今村 徹 *事例報告「障害特性に合わせた支援により就労に結びついた事例」 報告者：障がい者就業・生活支援センター アシスト 就業支援ワーカー 木村 和美 情報提供者：障害者職業センター 障害者職業カウンセラー 須田 奈都実 高次脳機能障害相談支援センター 相談支援コーディネーター 荻野 見菜子 助言者：新潟医療福祉大学 医療技術学部言語聴覚学科 教授 今村 徹	50人

オ 組織育成

高次脳機能障害に関する研修の機会拡大のため、関係団体が実施する研修会の支援を行った。

月日 (会場)	内 容	参加者数
高次脳機能障害 リハビリテーション 講習会 8月17日 (新潟市総合福祉 会館)	主催：高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会 共催：脳外傷友の会「スワン」 *講演①「一人じゃないよ」 講師：新潟リハビリテーション病院 医療相談室 主任相談員 山口 恵美	139人

<p>高次脳機能障害 リハビリテーション 講習会</p> <p>8月17日 (新潟市総合福祉 会館)</p>	<p>*トークディスカッション「当事者から学んだこと」 講師：新潟市社会福祉協議会 障がい者訪問介護センター 川本 真貴子 ななふくケアステーション サービス提供責任者 石田 真人 地域活動支援センタースワン 施設長 石井 祐子 助言者：特定非営利法人脳外傷友の会ナナ クラブハウスすてっぷなな 統括所長 野々垣 睦美</p> <p>*講演②「地域で暮らす当事者を支える」 講師：特定非営利法人脳外傷友の会ナナ クラブハウスすてっぷなな 統括所長 野々垣 睦美</p> <p>*講演③ 新潟市「心理療法セミナー」の報告会（第1回～4回） －「社会的行動障害の改善を目的とした集団認知行動療法」－ 講師：近畿大学短期大学部 講師 馬屋原 誠司</p>	<p>139人</p>
--	--	-------------

カ 家族支援

高次脳機能障害者の家族に対し、障害についての理解を深め、負担感・孤独感の軽減とエンパワメントを図ることを目的とし、実施した。

(ア) 家族教室（会場：三条地域振興局 1階第3会議室）

月 日	内 容	参加者数
9月19日	*講話「高次脳機能障害についての基礎知識～主な症状とその対応～」 講師：三之町病院リハビリテーション科 言語聴覚士 永井 直子	
10月17日	*講話「高次脳機能障害のご家族の体験談」 講師：脳外傷友の会スワン会員 助言：三之町病院リハビリテーション科 言語聴覚士 永井 直子	
11月21日	*講話①「高次脳機能障害者の相談支援と福祉サービスについて」 講師：地域生活支援センターやすらぎ 相談支援専門員 奥村富美子 *講義②「障害者の就労支援について」 講師：障害者就業・生活支援センター ハート 就業支援ワーカー 谷地田 由香理	延べ22人
12月19日	*講話「家族が元気であるために～ストレスとアロマセラピー～」 講師：アロマセラピスト 神田 有紀 *茶話会（参加者全員による語り合いとハンドマッサージ）	

(イ) 家族のつどい（会場：精神保健福祉センター）

- ・期 間 平成25年6月から平成26年2月（隔月開催）全5回
- ・対 象 平成24年度家族のつどい参加者及び新規参加者
- ・参 加 者 延べ 24人
- ・プログラム 1回1時間30分 語り合い

(ウ) 家族のつどい（会場：長岡地域振興局健康福祉環境部）

- ・期 間 平成25年9月から平成26年1月 全3回
- ・対 象 平成24年度家族のつどい参加者及び新規参加者
- ・参 加 者 延べ 16人
- ・プログラム 1回1時間30分 語り合い

(エ) 家族のつどい（会場：南魚沼市立ゆきぐに大和病院）

- ・期 間 平成 25 年 11 月、平成 26 年 3 月 全 2 回
- ・対 象 平成 24 年度家族教室参加者及び新規参加者
- ・参 加 者 延べ 9 人
- ・プログラム 1 回 1 時間 30 分 語り合い

キ 支援体制整備の推進

(ア) 高次脳機能障害相談支援地域拠点連絡会議の開催

高次脳機能障害相談支援地域拠点における相談支援の現状や課題について情報交換を行い、地域拠点機能の充実を図ることを目的に開催した。

月日 (会場)	内 容	参加者数
6 月 12 日 (精神保健福祉 センター)	・報告 (国及び県の運営方針について/H24 年度相談支援実施状況 について/H25 年度及びH25 年度圏域別支援者研修会について) ・情報交換 (相談支援実績をあげるための取組等)	14 人
平成 26 年 3 月 3 日 (精神保健福祉 センター)	報告 (国の運営方針について/H25 年度相談支援実施状況について /H25 年度事業実施状況及びH26 年度事業計画について/高次脳 機能障害に関する調査について)	14 人

(イ) 「高次脳機能障害相談支援ガイドブック」の発行

高次脳機能障害者への連続したケアと適切な支援を促進するため、医療、保健、福祉関係機関で高次脳機能障害者やその家族への支援を担当する関係者による「高次脳機能障害者支援ガイドブック作成委員会」を立ち上げ、「高次脳機能障害者支援ガイドブック」を作成し、関係機関に配布した。

(ウ) 高次脳機能障害者の福祉就労に関する調査の実施

障害者就労支援を実施する障害福祉サービス事業所における高次脳機能障害者の受け入れについて、現状の把握と問題点の整理等を行うため、調査を実施した。

- ・調査対象 県内に所在する就労移行支援、就労継続支援 A 型、就労継続支援 B 型のいずれかのサービス事業を実施している事業所
- ・回答方法 調査票を調査対象機関に送付し、ファクシミリにて回答を得た。
- ・調査期間 平成 26 年 1 月 29 日から 2 月 14 日

15 協 議 会 等

関係機関の主催する各種協議会等に参加し、連携・支援を行った。

主 催 者	会 議 等 の 名 称	出席者数 (延)
新潟県医師会	新潟県産業保健連絡協議会	1人
新潟保護観察所	新潟県覚せい剤事犯者地域支援連絡協議会	1人
(独) 高齢・障害・求職者雇用支援機構 新潟障害者職業センター	新潟地域精神障害者雇用支援連絡協議会(2回)	2人
県発達障害者支援センターRISE	発達障害者支援連携会議	1人
県児童家庭課	新潟県配偶者暴力防止連絡会議	1人
県高齢福祉課	介護予防市町村支援委員会(2回)	2人
	介護予防市町村支援委員会(閉じこもり・認知症・うつ部会)	1人
県障害福祉課	新潟県精神保健福祉審議会	1人
	新潟県自殺対策推進県民会議(2回)	2人
	精神保健指定医会議・精神科病院事務長看護部長会議	2人
	新潟県自立支援協議会	1人
	新潟県自立支援協議会精神障害者地域移行支援部会(2回)	6人
	新潟県自立支援協議会担当者会議(2回)	2人
	新潟県高次脳機能障害支援拠点運営委員会	2人
関東信越関東甲信越ブロック 精神保健福祉センター 連絡協議会	関東甲信越ブロック精神保健福祉センター連絡協議会役員会 (開催地：長野県)	1人
	関東甲信越ブロック精神保健福祉センター連絡協議会 (開催地：長野県)	2人
全国精神保健福祉センター長会	全国精神保健福祉センター長会議 (開催地：東京都)	1人
全国精神保健福祉センター 研究協議会	第48回全国精神保健福祉センター研究協議会 (開催地：三重県)	1人

新潟県精神保健福祉センター

〒950-0994

新潟市中央区上所2-2-3

ユニゾンプラザハート館

電 話 025 (280) 0111

F A X 025 (280) 0112